

学 会 記 事

§ 平成 27 年第 3 回日本核医学会理事会 議事録

日 時：平成 27 年 8 月 18 日（火）
12 時 00 分～16 時 30 分

場 所：日本アイソトープ協会 第 3 会議室
出席者

理事長：井上登美夫

理 事：飯田秀博，石井一成，伊藤健吾，
内山眞幸，小泉 潔，佐賀恒夫，
阪原晴海，千田道雄，玉木長良，
近森大志郎，外山 宏，中川原譲二，
橋本禎介，畑澤 順，藤井博史，
細野 眞，間賀田泰寛，松田博史，
望月輝一，渡邊 浩

監 事：田代 学，戸川貴史

書 記：金田朋洋

事務局：神田正子

欠席者

理 事：絹谷清剛，汲田伸一郎，佐々木雅之

議 題

I. 審議事項

1. 製品届け日適正化に伴う想定 Q&A 集（案）

(1)（井上登美夫理事長）

来年 4 月より，検定日と納品日が同日になるの
で，半年前の 10 月 1 日に告知されるとの報告が
あった。製品届け日の適正化に伴う Q&A につい
ても説明があり，いくつかの質疑応答があった
が，中でもタリウムの影響が大きいと思われる日
本心臓核医学会などへの対応に関して，別途説明
を予定しているとのことであった。

2. 平成 27 年理事選挙結果報告・指名理事の選出

(2)（戸川貴史監事，井上登美夫理事長）

20 名の選出理事に関する結果が承認された。
今後，9 月に監事選挙があり 10 月に理事長選挙
が予定されている。理事長が決まると，指名理事
の選出となるが，現理事会にて指名理事の案を出
す。伊藤健吾先生，外山宏先生，絹谷清剛先生，
立石宇貴秀先生の名が挙げられた。

3. 第 58 回学術総会会長の選出

(3)（井上登美夫理事長）

松田博史理事が第 58 回学術総会会長に承認さ
れた。

4. 日本核医学会賞・研究奨励賞・リターニー奨 励賞

(4)（玉木長良理事）

日本核医学会賞 宮崎大学 西井龍一先生，研
究奨励賞 東京都健康長寿医療センター 石橋賢
士先生，群馬大学 花岡宏史先生，浜松医科大学
鈴木千恵先生，リターニー奨励賞 北海道大学
平田健司先生に決定した。

5. 平成 27 年度ワーキンググループ

(5)（松田博史理事）

課題は多施設共同で核医学専門医が複数関与し
ているべきとの意見が出された。

継続 1 課題，新規 1 課題を採択した。

6. 名誉会員，功労会員の推薦

(6)（小泉潔理事）

名誉会員に，大鈴文孝先生，遠藤啓吾先生を推
薦することが決定した。功労会員に 8 名を推薦す
ることが決定した。

7. 看護師会員に関する定款・定款細則の変更

(7)（小泉潔理事）

看護師会員の新設に伴う定款・定款細則の変更
点について，検討した。定款細則の変更点は，社

員総会において看護師会員の新設に関わる定款の変更が議決されることを条件に理事会で承認した。

8. 平成 27 年度予算案 (案) (8) (阪原晴海理事)

予算申請書の記載金額をそのまま積算すると赤字になるので、増加率の高い国際交流事業費の増加を圧縮したことなど、平成 27 年度予算案 (案) について説明があり、審議の結果、承認した。

学術大会での支出の抑制が必要との意見があった。

9. 利益相反自己申請書 (9) (藤井博史理事)

「企業に雇用されている」を申告項目に追加することが承認された。申告の基準となる金額の見直しは今後検討していくこととなった。

10. 医学系研究の倫理指針における核医学検査の侵襲性の判断 (9) (藤井博史理事)

未承認 PET 薬剤の使用が侵襲的と見なされるのは仕方がない。侵襲的となるとモニタリングが必要になるが、その方法は個別に対応することになる。そのためモニタリングの指標を学会で定めるべきであり、学会の倫理委員会のもとに作業チームを結成する。分子イメージング戦略会議のメンバーも加わる。厚労省の班会議、JRS との連携が必要との意見があった。

11. 医療機器としての単体ソフトウェアの開発支援と診断指標の標準化に関する委員会からの提案 (10) (飯田秀博理事)

SPECT 定量化プログラム開発に関するガイドライン策定小委員会の設置を承認した。医療機器ソフトウェアとしての実用化、すなわち認証あるいは承認を得るようなソフト開発と検証の事例を示すことで有用なソフトの臨床への利用を促したい。ホームページでの運用を開始する。QIBA は産学官で基準を作っており、米国における医療技術の実用化の標準的な道筋が示される可能性が考えられる。

12. 編集委員会からの提案 (15) (佐賀恒夫理事)

メディカルトリビューンとの契約、和文誌の分割後のオープンアクセス、査読者の MT への情報開示、いずれも承認された。

日本医学広告社との契約継続の可否に関しては、編集委員会にて再検討する。

13. 核医学検査を安全に行うための手引き (案) (38) (渡邊浩理事)

安全性に重きがあり、定量性やデータの信憑性などに触れていないがそれはかまわない。薬剤師の視点が欲しいといった意見があった。

14. その他

蓑島聡先生のご尽力で SNMMI にて来年の highlight country に日本が決定した。毎年、ある国に hot spot を当て、学術だけでなく文化もアピールする試みで、世界核医学会の誘致にも有用であろう。タスクフォースを立ち上げて、何を企画するか検討することとなった。

II. 報告事項

1. 第 55 回学術総会準備状況報告

(11) (小泉潔会長)

一般演題は 362 題となり、会場の制約よりポスターでの応募をいくつか口演にまわした。なでしこの会にてリハビリメークに関する特別講演が予定されている。入場は女性優先とする。

2. 第 56 回学術総会準備状況報告

(12) (伊藤健吾次期会長)

筆頭演者、共同演者が非会員の場合の取り扱いについて、引き続き検討する。

参加登録における割引 (看護師、学部学生、研修医など) を導入予定である。

3. 第 57 回学術総会準備状況報告

(井上登美夫次々期会長)

日本学術会議から資料を求められている。

4. 第 16 回春季大会状況報告

(13) (井上登美夫理事長)

平成 28 年 4 月 22 日～24 日大阪国際交流センターで開催することが承認された。

5. 会計報告 (14) (阪原晴海理事)

平成 26 年 9 月～平成 27 年 7 月について会計報告があった。

6. 委員会報告

1) 編集委員会 (15) (佐賀恒夫理事)

ANM 審査状況について報告。採択率 12.8%。IF やや上昇した。Cross Check を導入した。

2) 教育・専門医審査委員会

(16) (望月輝一理事)

核医学専門医に 50 名申請し、92% の合格率であった。更新保留の 8 名は承認された。

日本専門医機構とのヒアリングは未実施である。日医放との差別化のためにも内用療法の経験を組み込むことが重要。放射線科医以外の医師が横断的に核医学専門医を取得できるようにとの意見があった。

核医学認定看護師制度はインターベンションエキスパートナースの認定制度を参考にしているとの報告があり、設立が承認された。規定等の検討については、教育・専門医審査委員会に一任された。

3) PET 核医学委員会 (17) (細野眞理事)

アミロイド PET 読影コース、企業とパートナーリング・プロジェクトを組む予定である。

4) 健保委員会 (18) (伊藤健吾理事)

「医薬品の適応外使用事例」で申請していたダイアモックスおよび消化管シンチは認められなかったが、いずれも再チャレンジを考慮している。次期診療報酬改定について内保連および厚生労働省のヒアリングがあった。内照射療法が放射線治療として認められにくい。

5) 広報委員会 (内山眞幸理事)

HP 管理会社に関して、HP を刷新し日が浅く、現行の MOMOS は良好に運営を行っている。さらに学会員 HP 上管理を改善する必要がある。

6) リスクマネジメント委員会

(19) (中川原譲二理事)

予期しなかった死亡例、を医療事故と定義する。医療事故が発生した場合は、遺族への説明と医療事故調査・支援センター（第三者機関）に届け出が必須となる。その後、院内調査へと進み、調査結果を第三者機関に報告する。医療

機関または遺族の依頼があれば第三者機関が再調査する。医療機関からの支援要請に対して学会には窓口が必要となる。事務局に問い合わせがあった場合は、リスクマネジメント委員長へ連絡する。

7) 放射線防護委員会 (20) (石井一成理事)

(1) 平成 27 年 6 月 7 日 J-RIME より参加学会協力のもと「最新の国内実態調査結果に基づく診断参考レベルの設定」が公表された。

(2) 原子力規制庁では、国際的な核セキュリティの動向を受け、放射性物質がテロ行為などに使用されることを防ぐためのセキュリティ対策について検討を行っており、この説明を受けた。防護対象とする線源登録制度の対象線源は密封線源であり、核医学領域で使用する校正用線源も対象カテゴリーに入らない量なのでほとんど規制を受ける可能性はないと予想される。

① PET 用サイクロトロンに関するクリアランスおよび放射化物質の取り扱いに関する小委員会 (21) (千田道雄理事)

サイクロに取り付けて「使用中」のものは放射化されていても放射化物ではない。また、空気中濃度の計算に際して、使用中の減衰が考慮されなくなった。O-15 使用施設で問題となり、O-15 ガス持続吸入投与などが困難となる。変更申請の際に問題が生じる。使用量を下げる工夫が必要である。

8) 利益相反審査委員会・倫理委員会

(藤井博史理事)

9) 各賞選考委員会 (玉木長良理事)

10) 核医学領域における薬剤師の活動のあり方検討委員会 (22) (間賀田泰寛理事)

日本核医学会、放射性医薬品取扱ガイドライン WG、日本アイソトープ協会の三者が共同して放射性医薬品の取扱いに関するアンケート調査を行うことを了承した。

11) 分子イメージング戦略会議

(23) (千田道雄理事)

① 早期探索 5 拠点 PET 連絡協議会

(畑澤順理事)

アミロイド PET 製剤 2 つめの合成装置が承認された。また、空気中濃度の計算に際して、使用中の減衰が考慮されなくなった。O-15 使用施設で問題となり、O-15 ガス持続吸入投与などが困難となる。変更申請の際に問題が生じる。使用量を下げる工夫が必要である。

12) 小児核医学検査適正施行委員会

(小泉潔理事)

次期理事会においても本委員会の継続の希望が出された。

13) 内用療法戦略会議 (絹谷清剛理事)

Sr-89 入院治療に関し現行では算定不可となっている。DPC 検討委員会にて「070040 骨の悪性腫瘍(脊椎を除く。)」内に「Sr-89 治療あり」のフラグをつけ、算定を進める方向で現在進めている。I-131 入院に関しては治療当日の算定を他の日より多くする点数設定方式 D に変更を進める予定である。

14) 将来計画・経営戦略委員会

(24) (外山宏理事)

核医学専門技術セミナーを実施した。参加者のアンケート結果、放射線技師の退会防止策として有用と考えられた。来年以降も内容を充実して継続するようお願いした。

15) 予算委員会 (井上登美夫理事長)

16) 医療機器としての単体ソフトウェアの開発支援と診断指標の標準化に関する委員会

(25) (飯田秀博理事)

欧米では QIBA という画像の定量化を標準化し、普遍的な医療技術としてメーカーからもサポートできるような指標をつくる組織が活動している。

7. ワーキンググループ (松田博史理事)

8. 分科会活動

1) 腫瘍・免疫核医学研究会

(佐賀恒夫理事・絹谷清剛理事)

2) 日本脳神経核医学研究会 (石井一成理事)
第 55 回日本核医学会学術総会最終日 (11 月 7 日) 午後に第 16 回日本脳神経核医学研究会を開催の予定である。

3) 日本心臓核医学会 (26) (近森大志郎理事)
Annals of Nuclear Cardiology の創刊が予定されている。

4) 呼吸器核医学研究会 (内山真幸理事)
年 2 回開催され、日本呼吸器学会へのジョイントシンポジウムも行われている。

5) PET 核医学分科会 (27) (細野真理事)
PET サマーセミナー 2015 in 東京ベイが 9 月に開催される。2016 年は熊本の予定である。全サイクロ施設の登録が達成されている。

9. 国外学会等連携

外国の演者のフライト費用、宿泊費の負担につき厳格に明記した方が良いとの意見があった。

1) 世界核医学会 (37) (井上登美夫理事長)

2022 年世界核医学会招致委員会

2) 米国核医学会 (玉木長良理事)

3) ヨーロッパ核医学会 (IAEA を含む)

(28) (千田道雄理事)

EANM と JSNM で MOU を締結した。EANM は 41 団体からなり、JSNM を特別扱いして EANM congress でセッションを企画することは難しいが、そのようなセッションの提案を公募するそうなので、JSNM としてぜひ応募すべきである。

4) アジアオセアニア核医学会

(ARCCNM 兼務) (29) (外山宏理事)

5 月 15 日、第 1 回アジア核医学フォーラム (上海) が開催され、中東も含め、200 名以上、日本から 20 名参加した。11 月 2 日、チェジュ島で第 2 回アジア核医学専門医試験が開催される。日本から 4 名の応募があった。来年第 2 回は 2016 年 4 月 15 日、上海で開催予定である。第 7 回 CJK カンファレンスは、2016 年 7 月

15-17日、瀋陽で開催予定である。

日中核医学交流会 (30) (外山宏理事)

11月6日、学術総会において日本核医学技術学会との合同プログラムとして、第2回日中核医学交流会を開催する。同日、中国から日本への留学中お世話になった指導教官を中国側が招待し、“感謝の旅”パーティを開催する。日中の若手医師、技師の短期相互交流を予定している。

10. 理事長報告 (井上登美夫理事長)

11. その他

1) 日本がん治療認定医機構 2015 年度関連学会連絡委員会 (31) (小泉潔理事)

2) 核医学専門技師認定機構からの報告 (小泉潔理事)

第10回認定試験が8月1日に行われ、約80名受験した。

3) 原子力総合シンポジウム 2015 (32) (間賀田泰寛理事)

4) 標的アイソトープ治療 (いわゆる RI 内用療法) アンケート (放医研実施予定) (33) (井上登美夫理事長)

5) 放射性薬剤の販売状況報告 (34) (井上登美夫理事長)

クロム酸ナトリウムの発売中止 (FRI)

6) 町田喜久雄先生 (名誉会員) よりの提言 (35) (井上登美夫理事長)

III. 確認事項

1. 前回議事録 (案) (36)

§ 平成 27 年日本核医学会第 1 回理事候補者会

日時：平成 27 年 10 月 19 日 (月)

10 時 00 分～11 時 30 分

場所：日本アイソトープ協会 第 3 会議室

出席者：飯田秀博、石井一成、伊藤 浩、井上登美夫、佐々木雅之、千田道雄、玉木長良、近森大志郎、橋本 順、橋本禎介、畑澤 順、藤井博史、細野 眞、松田博史、森 一晃

(理事候補者)

小泉 潔、田代 学 (監事候補者)

事務局：神田正子

欠席者：内山眞幸、久下裕司、阪原晴海、中川原讓二、望月輝一 (理事候補者)

議 題

I. 審議事項

1. 平成 27 年度理事長選挙

(1) (小泉潔、田代学監事候補者)

理事長選挙における委任状の扱いの説明の後、出席理事候補者 15 名による理事長候補者の選挙を行った。その開票結果は以下のごとくである。

有効票 20 票 (欠席者 5 名は委任状提出)

20 票 畑澤 順 先生

理事長候補者に畑澤順先生を選出し、承認した。

2. 指名理事の選出 (2) (畑澤順理事長候補者)

理事長候補者、理事候補者、および監事候補者の挨拶・自己紹介の後、指名理事の選出を行った。平成 27 年第 3 回理事会において、案として名前の挙がった絹谷清剛先生、伊藤健吾先生、外山宏先生、立石宇貴秀先生に加え、百瀬敏光先生が指名理事として選出された。ご本人の承諾を得た上で最終決定される。

3. 第 16 回および第 17 回春季大会について

(3) (細野眞理事候補者)

資料 3 に基づき、第 16 回春季大会の開催時期・概要について、平成 28 年 4 月 22 日～4 月 24 日、

大阪国際交流センターにて開催，開催日程を3日間とする旨，大阪で開催されるため，講師を西日本から選びたい旨等の説明があった．引き続き第17回春季大会（平成29年，東京にて開催）の日程について，4月22日～4月24日および5月13日～5月15日のふたつの候補日が提案され，日医放や日本循環器病学会等の関連学会の日程を考慮し，次回第2回理事候補者会で決定することとした．

II. 報告事項

1. 平成26年度役員名簿

(4) (畑澤順理事長候補者)

平成26年度日本核医学会役員名簿，委員会名簿が提示された．

2. EANM 報告 (5) (畑澤順理事長候補者)

資料に基づき，2015年10月10日～14日にハンブルグにて開催されたEANMにおける各種meetingの概要について報告された．今後，日本核医学会による国際的な情報発信の重要性を強調された．関連して，2016年6月に開催されるSNMMI 2016 Annual MeetingにおけるHighlight Countryの取り組みに関して意見交換された．

III. 確認事項

1. 理事会日程

会議名：第4回日本核医学会理事会

日時：平成27年11月4日（水）

14：00～16：30

場所：日本アイソトープ協会第3会議室

会議名：第2回日本核医学会理事候補者会

日時：平成27年11月4日（水）

16：30～18：00

場所：日本アイソトープ協会第3会議室

§ 平成27年日本核医学会第2回理事候補者会

日時：平成27年11月4日（水）

17時50分～18時20分

場所：日本アイソトープ協会 第3会議室

出席者：

理事長候補者：

畑澤 順

理事候補者：

飯田秀博，石井一成，井上登美夫，

伊藤 浩，伊藤健吾，内山真幸，

絹谷清剛，久下裕司，阪原晴海，

佐々木雅之，千田道雄，立石宇貴秀，

玉木長良，近森大志郎，外山 宏，

中川原譲二，橋本 順，橋本禎介，

藤井博史，細野 眞，松田博史，

望月輝一，百瀬敏光，森 一晃

監事候補者：

小泉 潔，田代 学

書記：中本裕士

事務局：神田正子

議 題

I. 審議事項

1. 各委員会の担当理事の選任 資料1

畑澤順理事長候補者より，平成27年度担当役員について説明があった．

もし理事長が任務を遂行できない場合の代理として庶務担当理事松田博史先生を指名された．

同様にANMの編集委員長が任務を行えない場合に備え，副編集長として理事の中から橋本順先生を指名し，副編集長は橋本順先生と犬伏正幸先生の2人体制で行う．

理事会の役割分担について，意見があれば1週間以内をめどに畑澤順先生に連絡する．

2. 今後の学会運営について

① 第17回春季大会の日程 資料2

第17回春季大会は2017年4月22-23日秋葉原UDX等で開催することが決定した．

II. 報告事項

1. 前回議事録（案）

資料3

§ 平成 27 年第 4 回日本核医学会理事会 議事録

日 時：平成 27 年 11 月 4 日（水）

14 時 00 分～17 時 50 分

場 所：日本アイソトープ協会 第 3 会議室

出席者

理事長：井上登美夫

理 事：飯田秀博，石井一成，伊藤健吾，
内山眞幸，絹谷清剛，汲田伸一郎，
小泉 潔，佐賀恒夫，阪原晴海，
佐々木雅之，千田道雄，玉木長良，
近森大志郎，外山 宏，中川原譲二，
橋本禎介，畑澤 順，藤井博史，
細野 眞，間賀田泰寛，松田博史，
望月輝一，渡邊 浩

監 事：田代 学，戸川貴史

オブザーバー：

理事候補者：

伊藤 浩，久下裕司，立石宇貴秀，
橋本 順，百瀬敏光，森 一晃

書 記：中本裕士

事務局：神田正子

議 題

I. 審議事項

1. 平成 27 年度監事選挙報告

(1)（井上登美夫理事長）

監事は田代学先生，小泉潔先生の 2 人に決定。
異議なし。

2. 平成 27 年度理事長選挙報告

(2)（小泉潔・田代学監事候補者）

新理事長は畑澤順先生に決定。異議なし。

3. 平成 27 年度事業計画 (3)（小泉潔理事）

第 7 回社員総会用資料に基づき，平成 27 年度
事業計画案を承認。

4. 平成 27 年度収支予算案

(4)（阪原晴海理事）

春季大会の開催事業費および国際交流事業費を
増額した予算案が説明され，承認。

5. 塩化ラジウム (Ra-223) 注射液を用いた内用療法の治療適正使用マニュアル (第2版) (案), 塩化ラジウム (Ra-223) 注射液を用いる内用療法の適正使用マニュアル (案)

(細野眞理事)

現行の治療適正使用マニュアル (第1版) を改訂したものが治療適正使用マニュアル (第2版) である。また適正使用マニュアルは、核医学会、医学放射線学会、泌尿器科学会、放射線腫瘍学会、放射線技術学会の承認を得るもので、上梓後は、保険診療、治療ともに内用療法のこの適正使用マニュアルが適用される。承認。

イットリウム-90 標識抗 CD20 抗体を用いた放射免疫療法の適正使用マニュアル (案)

現行の適正使用マニュアルの講習会の講義と実習の形式を変更することに伴う改訂である。承認。

6. 日本医療安全調査機構の助成金

(5) (中川原譲二理事)

日本医療安全調査機構より、国庫からの補助金収入がなくなるため、関連学会に助成金の依頼がきた。負担費 10 万円+助成金 10 万円の合計 20 万円の支出となる。承認。

7. 日本専門医機構のヒアリング結果と今後の方針

(6) (望月輝一理事)

- (1) 核医学専門医の基盤領域・カリキュラム

10 個のサブスペシャリティのひとつとして選ばれたのはひとつの成果と考えられる。専門医制度に関するヒアリングが実施された。今後の研修プログラム作成が重要であり、特に基本領域 19 の研修プログラムを調査して、核医学専門医の研修プログラムに反映する必要がある。核医学専門医は横断的領域として認められそうな印象があった。

8. 雑誌広告と ANM の今後の方針

(7) (絹谷清剛理事)

- (1) 日本医学広告社との契約解除の是非

契約に至った経緯は不明だが、日本医学広告社との契約を解除の予定。異論なし。

- (2) ANM 印刷冊子体の会員配布終了の可否

3700 印刷体を配布。完全になくすと 900 万円の経費を節減できる。日本癌学会では 2010 年に学会誌は廃止されている。紙媒体における広告費の収入は 100 万円程度なので、廃止しても影響は少なく、またニューズレターは紙媒体として継続する。英文誌に日本語の広告があっても価値はないらしい。学会員に意思表示を確認する予定。年配の会員であってもお金を支払って配布の方向が良いのではないか。以上、方向性として全会員への紙媒体の配布は廃止し、ほしい人は有料で配布するという意見は集約された。総会において評議員に説明を行い、賛同を仰ぐこととなった。

経費を削減することで将来的にオープンアクセス化することに備えることができる。

9. 医薬品医療機器総合機構 (PMDA) より、疾患領域別データ標準作成への協力依頼

(8) (井上登美夫理事長)

核医学がコンパニオン診断薬として関与するため、協力することで承認。

10. その他

- (1) 分子イメージング戦略会議から「臨床試験の信頼性確保のための考え方」を提言。承認。

- (2) アミロイド PET 読影講習会

(細野眞理事)

PET 核医学委員会が担当して平成 27 年 10 月 24 日に第 1 回 Flutemetamol 読影コースを実施し、試験で 14 名全員が基準点を獲得し、修了と判定した。教育・専門医審査委員長の確認を経ている。承認。

II. 報告事項 (基本的には配付資料参照)

追加事項・特記事項を記入した)

1. 第 55 回学術総会準備状況報告

(小泉潔会長)

明日 11/5 より 3 日間の予定で総会が開催されることが報告され、プログラム集が配布された。

2. 第 56 回学術総会準備状況報告

(伊藤健吾次期会長)

名古屋での開催は 43 年ぶり.

来年から印刷物の抄録集は廃止となる予定.

3. 第 57 回学術総会・AOCNMB2017 準備状況報告

(井上登美夫次々期会長)

2017/10/5-7 の 3 日間開催される予定である.

AOCNMB はアジア版 EANM のようなものを念頭に置いている.

4. 第 16 回春季大会状況報告

(9) (畑澤順大会長)

計画時には 2 ヶ所の会場を考えていたが, 結局 1 ヶ所で 3 日間行えることになった.

5. 会計報告 (10) (阪原晴海理事)

6. 委員会報告

1) 編集委員会 (7) (絹谷清剛理事)

ANM と EJNMMI で review を相互に掲載. 同じ雑誌からの引用は目立つので, ANM 10-15 編, EJNMMI からは 40 編くらいの予定. IF は 0.2 くらい上がる可能性あり.

さらに他学会雑誌との連携を強化して露出を強化していく.

中国から Asian Journal of Nuclear Medicine という英文誌が発刊される予定である.

2) 教育・専門医審査委員会

(11) (望月輝一理事)

認定看護師制度を作成した. 認定審査料は 5,000 円とした.

3) PET 核医学委員会 (12) (細野眞理事)

PET 研修セミナー, アミロイド PET 読影講習会, フルテメタモル各条策定, PET 施設認証等を実施している.

4) 健保委員会 (伊藤健吾理事)

診療報酬改定要望におけるアミロイド PET イメージングと関連する事項として, すでに公表している適性適用のガイドラインについては若年性認知症への適用を強調する内容で改訂を準備している.

診療報酬改定の核医学関連の要望は医療技術の 1 次評価 (737 件) では残っている. 最終的

には何分の 1 かに絞られる予定で結果は来年 1 月に判明する.

米国では NaF の保険償還は reject されたが, 引き続き CED (Coverage with evidence development) を続けるようにとされている. 現在来年度の改定にむけて出している要望は以下のものである.

- ・アミロイド PET の新設
- ・アンモニア PET の増点
- ・甲状腺疾患内用療法の栄養管理料
- ・PET 検査における薬剤師の評価
- ・放射性同位元素内用療法管理料:
ラジウム-223
- ・放射性医薬品安全管理加算

5) 広報委員会 (内山眞幸理事)

6) リスクマネージメント委員会

(中川原譲二理事)

7) 放射線防護委員会 (石井一成理事)

市立甲府病院の事件に関して示談成立の連絡を受けた.

生物医学研究志願者の放射線防護に関する提言 Q&A (案) が日本アイソトープ協会医学薬学部会安全管理委員会で承認された.

8) PET 用サイクロトロンに関するクリアランスおよび放射化物質の取り扱いに関する小委員会 (13) (千田道雄理事)

本体から一時的に取り外された, 放射化されているものを, 使用中と呼べるかは明確な基準がない. 放射化物質保管設備を設置することは難しくないが, 変更申請が必要となる. どのようなやり方が適切かは確定しておらず, 今後の事例に基づいて考慮することになる. (まだガイドラインを作るほどに事例がない) 規制室には原発と医療の 2 つのグループがある. 規制により「検査ができなくなる」ことは本意ではない. 規制が厳しくて臨床検査ができない, という声を個別にあげている状況. 原子力規制室に医系技官がおらず, 医療現場の実態が理解されづらい. 小さなことでもデータは論文の形でしっかりと形に残し公表しておくことが重要で

あろう。

9) 利益相反審査委員会・倫理委員会

(14) (藤井博史理事)

4月以降に承認された臨床研究(侵襲を伴う介入研究)はモニタリングが求められる。

利益相反の開示は医学会からガイドラインが示されており、各分科会はこれに準じた対応が求められている。日本核医学会としては、今後、関連学会等と意見調整を図り、対応を検討していく予定である。

10) 各賞選考委員会 (15) (玉木長良理事)

アジア核医学研究奨励賞、日本核医学会賞、核医学研究奨励賞、リターニー奨励賞の応募条件や選考基準について説明した。特にあと二つは応募が減っているため、増えるように賞の存在を若手に伝える。今年度選ばれなくても次年度以降の応募は可能である。

11) 核医学領域における薬剤師の活動のあり方検討委員会 (間賀田泰寛理事)

薬剤師向けの教育活動を引き続き行っていく。各施設でも薬剤師向けに働きかけを続けて頂きたい。

12) 分子イメージング戦略会議

(16) (千田道雄理事)

早期探索5拠点PET連絡協議会

(畑澤順理事)

3学会によるアミロイドPETガイドラインを正式に発表した。アミロイド薬剤合成装置はこれまでに2剤3装置が承認されている。新年度からは、標準化と認証に関する小委員会を統括する役割は完全にPET核医学委員会に移管し、大幅に改組して、個別案件等にて戦略を練る部分と当局や企業とのやりとりを行う部分で活動を継続する予定。

13) 小児核医学検査適正施行委員会

(17) (小泉潔理事)

Dosage cardの国際的な標準化にむけて取り組むことが今後の課題のひとつである。

14) 内用療法戦略会議 (絹谷清剛理事)

6月の国会で内照射療法に対しても積極的に

取り組むという方針の答弁があった。政府として動く必要があるため、内用療法が大きく進展する可能性がある。安倍首相の答弁に沿った進展があるか行政に問いかけることが予定されている。

内用療法に関するアンケートから見えるもの

- ・規制が厳しすぎる
- ・高価である
- ・人材育成
- ・家族や公衆に対する被曝の懸念

横浜市大における特区申請にて¹⁷⁷Lu-DOTATATE規制緩和を求める。

現在内用療法を行っているのは文科省の大病院のみで、厚労省関係の病院は行っていないという問題がある。さらに医療法・障害防止法の二重規制の問題も顕在化する。

15) 将来計画・経営戦略委員会 (外山宏理事)

学会の収支増加目的のために検討、実施された以下の項目を報告した。

- ・春季大会における核医学技術セミナー新設、核医学専門技師のクレジット認定
- ・医師以外の会員確保、看護会員新設
- ・放射線科以外の正会員確保、分科会共催における入会案内

16) 予算委員会 (井上登美夫理事長)

17) 医療機器としての単体ソフトウェアの開発支援と診断指標の標準化に関する委員会

(飯田秀博理事)

医療機器ソフトウェアにもサイバーセキュリティへの対応を義務付けるガイドラインが出される方向で検討中。過大な負担をソフト提供企業に求めることにならないよう要望している。研究用ソフトの提供について、学会から指針を提示する必要があると考えられる。

7. ワーキンググループ (松田博史理事)

新規ワーキンググループ「原子力緊急事態における一般公衆の健康不安の対応にかかる核医学専門医の人材育成のあり方について」の代表者が前回のワーキンググループにおいて、メンバー間の意思疎通の不備、学術総会時のトラブルによる実

施すべき最終報告を辞退されたというアクシデントがあった。同じことが起きるのではないかとの懸念があったが、前回の理事会で、承認された事項なので、中間報告の審査の時、再度検討することになった。

8. 分科会活動

1) 腫瘍・免疫核医学研究会

(佐賀恒夫理事・絹谷清剛理事)

28年度も春季大会中に開催予定。佐賀先生が大会長。

2) 日本脳神経核医学研究会 (石井一成理事)

3) 日本心臓核医学会 (18) (近森大志郎理事)

4) 呼吸器核医学研究会 (19) (内山眞幸理事)

Xe-133 が来春より全世界で使用できなくなる。

5) PET 核医学分科会 (20) (細野眞理事)

PET サマーセミナーは、2016 年は熊本、2017 年は奈良で開催予定。

9. 国外学会等連携

1) 世界核医学会 (井上登美夫理事長)

2022 年世界核医学会招致委員会

(21) (絹谷清剛理事)

立候補国カナダと日本誘致について交渉中。誘致活動費を来年度予算だけで支出すると単年度が赤字になるので、預貯金を取り崩すことを次期理事会で、検討する。

2) 米国核医学会 (22) (玉木長良理事)

来年のハイライト国が日本であることから、Plenary session での日本の紹介の他、Continuing Education Sessions として 12 個の演題を提出した。

3) ヨーロッパ核医学会 (IAEA を含む)

(23) (畑澤順理事・千田道雄理事)

PET の実態調査は Clinical Trial Network がおさえているが、SPECT の実態調査は日本で 3 年に 1 回行っているもののみ。

EANM は 40 ヶ国が集まったもので、本学会との関係は 1 対 1 ではないため、彼らの総会にて 1 学会との joint program はできないとのこと。トピックの提案は受け付けるとのこと。

ブースは無料で出展可能で、継続する予定。MOU は結んだが、具体的な交流は難しい。

4) アジアオセアニア核医学会

(ARCCNM 兼務) (外山宏理事)

日中核医学交流会 (外山宏理事)

中国核医学会、ARCCNM/ASNM と実施された学術交流、人的交流について報告した。

10. 理事長報告 (24) (井上登美夫理事長)

社員総会で発表するスライドについて説明された。

11. その他

III. 確認事項

1. 前回議事録 (案) (25)

§ 第7回一般社団法人日本核医学会 社員総会 議事録

平成27年11月5日(木) 17:00-18:00

ハイアットリージェンシー東京

センチュリールーム A (第1会場)

資料に基づき物故会員の報告があり、全員で黙祷を捧げた。

議 題

1. 第55回日本核医学会学術総会報告

小泉潔会長より今回の学術総会についての報告があった。

2. 第56回日本核医学会学術総会準備状況報告

伊藤健吾次期会長より第56回日本核医学会学術総会が平成28年11月3日～5日に名古屋市名古屋国際会議場で開催されることが報告された。

井上登美夫理事長より社員総会が成立したことが報告された後、井上登美夫理事長が、議長として議事に入った。

評議員定員183名(成立出席者数92名、定款の変更の承認に必要な有効票数は、122票以上、定款を除く議事承認に必要な有効票数は92名以上)

当日出席者93名、委任状75名、総計出席総数168名

3. 看護師会員の設立についての日本核医学会定款の変更

資料2, 3に基づき庶務担当理事小泉潔理事から、「看護師会員の設立」について説明があり承認された。なお、看護師会員について、定款細則の変更が理事会で承認されたことが報告された。

4. 平成26年度新役員

資料4に基づき小泉潔理事から、新役員およ

び畑澤順新理事長就任について報告があり承認された。

5. 「核医学」誌の発行形態変更と「ANM」誌の印刷冊子体会員配布中止

資料5に基づき編集委員長絹谷清剛理事から、「核医学」誌の発行形態変更および、「ANM」誌の印刷冊子体会員配布中止について説明があり、承認された。

6. 認定看護師制度の設立

資料6に基づき教育・専門医審査委員長望月輝一理事から、認定看護師制度の設立について報告があった。

7. 平成26年度事業報告

資料1に基づき庶務担当小泉潔理事から事業報告があり、承認された。

8. 平成26年度損益決算報告

資料8に基づき会計担当阪原晴海理事から正味財産増減計算書および貸借対照表についての報告があった。田代学監事から会計監査報告があり、損益決算が承認された。

9. 平成27年度事業計画案

資料1に基づき、庶務担当畑澤順理事より事業計画につき提案され、承認された。

資料7に基づき、名誉会員2名、功労会員8名の推薦があり承認された。

10. 平成27年度収支予算案

資料8に基づき会計担当阪原晴海理事より予算案につき提案があり承認された。

11. 小泉潔理事から任意団体日本核医学会は平成26年度について特に活動がなかったことが報告された。

12. 井上登美夫理事長より、平成24年～平成27年の会員数・予算額の推移、学会活動のグローバル化、学会の今後の課題について説明があった。

13. 井上登美夫議長より、閉会宣言がなされた。